

愛媛支部

司法部学習会「成年後見制度について」



9月28日(土)、「成年後見制度について」というテーマで学習会を開きました。講師は、司法書士でひめ通研司法部の木原道雄さんです。制度ができた経緯や内容など、司法書士ならではの視点から、日ごろ現場で感じていることや具体例も交えながらわかりやすく語っていただきました。その後、後見人・ケアマネジャー・施設関係者・当事者の話し合いの場面の模擬通訳を3パターン行いました。迫真の演技に、見ている人からは「ああ、ありそう……」「これは困る……」と思わずため息が漏れていました。



制度利用において、知的障がい、精神障がい、認知症などに比べて、聴覚との重複障がいのあるダブルマイノリティの方の事例は、その問題点や留意点について、これまであまり取り上げられてきませんでした。しかし、意思疎通の可能性はある間は本人の意思をきちんと確認し尊重するという当たり前のことを実現できるように、手話や聞こえない人の暮らしに関わ

る私たちが制度をよく理解し、もっと声を上げていかななくてはならないと感じました。

香・通・研 なるほど講座 開催

香川支部

11月23日(土)かがわ総合リハビリテーションセンターにて、恒例の『なるほど講座』を開催しました。24名の方が参加され、午前は、40周年記念実行委員会「香・通・研あれから40年」と健康対策班による「頸肩腕障害を知ろう!」「伸ばそう。ほぐそう。凝りコリ身体!」～ストレッチ～。そして、午後からは、全通研参与の小出新一氏をお迎えし「手話知らんですんません」のテーマでご講演いただきました。香通研の40年の歩みを、寸劇に仕立て上げ、見て分かりそして楽しめる内容で、改めて聞こえない人と共にあったことが実感できました。ストレッチは、日頃から気がついたときに、ちょっと簡単にできる動きを学びました。



午後からの講演は、小出氏の引きつけられる語りで、あっという間の時間でした。聞こえない人たちが生活をする地域から、自然発生的に作り出された手話語彙のこと、手話の歴史等、書物で読んで知っているはずのことが、目の前で生き生きと再現される感覚でした。

あさいと 結社

健康学習会「自分を見つめる心の学び」

残暑きびしい9月8日(日)午後、高知県聴覚障害者情報センター研修室にて「自分を知る」というテーマで学習会を行いました。講師は、専門学校で発達心理や教育原理などを教えている津江美和先生、時折見せるいたずらっぽいほほ笑みが印象的でチャームアップな方です。

学習会の内容は、パーソナリティ理解のための心理検査についての説明と3つの「自分を知る」心理検査でした。

参加者はろう者、未会員も含め33名。心理検査項目に真剣に向かうみなさんの様子を見て、多忙な日常に紛れつつ置いてきぼりになる自分、またそのような社会であるため、今回のテーマに興味関心を持ったのだろうと思いました。

先生から「自分を理解することで、自分に対して肯定感や安心感を持ち将来への希望が見え、(省略)他者に対しても労わりの気持ちが持てる…そんな広がりがあればいいなと思います。」という話がありました。

今日はそんな学習会になりました。

高知支部



「災害時におけるきこえない・きこえにくい人の支援連携協定」

10月15日、鳥取県と徳島県の聴障協会、徳島県社会福祉事業団の三者での協定の締結式が東京の衆議院第一議員会館で行われました。今後、災害が発生した時に両県の登録手話通訳者及び要約筆記者の派遣を相互にすることや相互研修等を行うことを目指しています。7月の初めに鳥取県から提案され、徳島県危機管理局および障がい福祉課とも話し合いの場を設けて今回の締結式へとつながりました。



派遣のみでなく、両県の手話表現の違いで通じないことがないように研修の機会をつくってほしいと当事者の意見もあり、相互研修等の内容も入れられました。徳島県の派遣事業が社会福祉事業団視聴覚障がい者支援センターが担っていることで今回は三者での締結式となりました。締結後、すぐに登録手話通訳者・要約筆記者には、派遣の意思確認の調査も行われました。今後、協定が他の県へのモデル事業となるよう期待されています。

徳島支部